（様式５）　　令和６年度　研究報告書

派遣者番号	Ｒ５Ｓ０１	氏　名	藤原　真琴
研究主題 －副主題－	グローバル教育に係る教員研修の一提案 ―教員の主体的な授業実践を目指して―		
派遣先大学	兵庫教育大学 大学院	指導担当者	川﨑　由花
所属	新宿区立早稲田小学校	所属長	波多江　誠

キーワード：グローバル教育　グローバル人材　教員研修　　授業指導不安

要旨：本研究は、グローバル教育の授業実践に焦点を当て、教員研修の実施が教員の授業指導不安に及ぼす影響を明らかにするとともに、教員がグローバル教育授業実践に主体的に取り組むことを目指した教員研修を提案することを目的とした。研究１では、校内研修の実施が教員のグローバル教育に対する授業指導不安に与える影響を検証した。その結果、グローバル教育に係る教員研修は、教員の授業指導不安を軽減させる可能性があることが示唆された。研究２では、海外転入児童の多い小学校教員を対象に、グローバル化する教育現場においてどのような意識をもっているかについて調査した。その結果、学校の特徴に関連する不安として、「自分の教育観や価値観をおしつけてしまわないかという不安」「子どもとの逆転現象に対する不安」等があることが示唆された。２つの研究から示唆されたことを踏まえ、体験型英語学習施設「TOKYO　GLOBAL　GATEWAY」を活用した教員研修案を作成した。

グローバル教育に係る教員研修の一提案
―教員の主体的な授業実践を目指して―

専　攻　　教育実践高度化専攻
コース　　グローバル化推進教育リーダー
学籍番号　P23110F
氏　名　　藤原　真琴

はじめに

急速なグローバル化が進展していく教育現場で、グローバル人材の育成を目指したグローバル教育の授業実践は、教員にとって大きな課題の一つである。しかし、今日の教育現場において、グローバル教育の授業実践が定着しているとは言い難く、教員の主体的な授業実践に課題が残る。そこで、本研究では、グローバル教育の授業実践に焦点を当て、教員研修の実施が教員の授業指導不安に及ぼす影響を明らかにするとともに、教員がグローバル教育授業実践に主体的に取り組むことを目指した教員研修を提案することを目的とした。

日本におけるグローバル教育の動向と課題

グローバル教育とは、研究や理念によってその定義は幅広く、様々である。笠井（2009）によると、1960 年代にアメリカでグローバル教育が誕生し、これまで多くの研究・実践が行われている。本研究では、グローバル人材の育成を目指して行われる教育活動をグローバル教育と定義した。東京都は、『東京都教育施策大綱』（東京都、2021）において、グローバル人材の育成を、「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項として位置付けている。東京都教育委員会は、各学校においてグローバル人材育成に向けた取組を推進していくためのガイドライン『東京グローバル人材育成指針』（東京都教育委員会、2022）を設定し、その中で小・中・高等学校を通して育成すべき資質・能力を提示している。他方で、経済協力開発機構（OECD）が 2018 年に行った国際教員指導環境調査（TALIS）の結果では、多文化的な学級の指導について肯定的な回答をした教員の割合が日本は最低値となっている。授業実践の不安は教員効力感における個人的教授効力感にダメージを与える可能性がある（西松、2005）ことから、グローバル教育授業実践に主体的に取り組むことを目指した教員研修では、グローバル教育への授業指導不安の軽減に焦点を当てる必要があると筆者は考えた。

研究 1　小学校におけるグローバル教育に係る教員研修の効果検証

研究 1 の目的は、校内研修の実施が教員のグローバル教育に対する授業指導不安に与える影響を検証することである。仮説「小学校の校内研修という状況で、グローバル教育に係る教員研修を行った場合、受講した教員の受講前後のグローバル教育に対する授業指導不安に差がある」を検証するため、都内の小学校において校内研修を実施した。本研究に参加した 19 名の研修受講者には、受講前後に質問紙調査を行った。グローバル教育授業指導不安の測定には、授業指導不安尺度（松宮、2013）から 3 つの下位尺度（「授業設計不安」3 項目、「授業指導不安」4 項目、「英語指導不安」3 項目）を、一部の文言を変更して使用した。事前・事後で得られたデータは統計ソフトを使用して分析した。その結

果、受講前後で授業指導不安得点の平均値に有意な低下が見られた。また、下位項目では、「授業設計不安」と「英語指導不安」の平均値に有意な低下が見られた。このことから、グローバル教育に係る教員研修は、教員の授業指導不安を軽減させる可能性があることが示唆された。

研究２　海外転入児童が多い小学校教員の意識調査

研究 2 の目的は、海外転入児童の多い小学校の教員の意識を調査することで、教員がグローバル教育授業実践に主体的に取り組むことを目指した教員研修の開発における課題を明らかにすることである。海外転入児童数が国内転入児童数を上回るという特徴をもつ都内公立小学校（以下 A 小学校）を研究対象校に設定した。A 小学校に勤務する教員のうち、調査への同意が得られた 26 名を調査対象者とした。調査は半構造化面接の形式で行われた。音声を文字起こししてデータ化し、コーディングしてカテゴリに分け、概念化して概念図を作成した。さらに、語りの中から A 小学校の特徴に関連する部分を抽出して分析し、概念図に組み込んだ（図 1）。

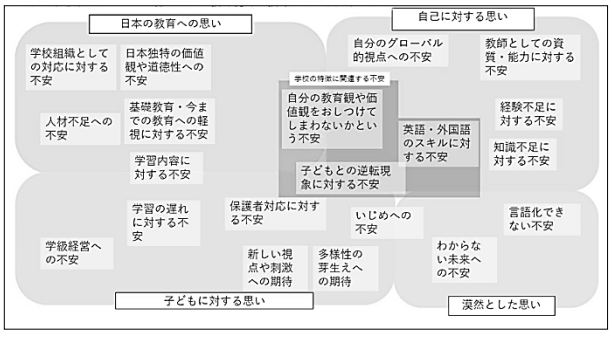

図１　A 小学校における教員の意識概念図

その結果、A 小学校の教員には、これからさらにグローバル化していく教育現場において、「日本の教育への思い」「子どもに対する思い」「自己に対する思い」「漠然とした思い」の 4 つに分類される思いがあることが示唆された。また、学校の特徴に関連する不安として、「自分の教育観や価値観をおしつけてしまわないかという不安」「子どもとの逆転現象に対する不安」「英語・外国語のスキルに対する不安」があることが示唆された。

教員の主体的なグローバル教育授業実践を目指した教員研修の提案

研究１、研究２で示唆された結果から、本研究の目指す教員研修には①所属する学校のグローバル化の概観と教員自らの新たな視点の獲得、②異文化体験及び非母語話者とのコミュニケーション体験、③グローバル教育に係る単元構成や授業設計などを行うワークショップ型校内研修、この 3 つの要素が必要であると推察された。

これらの要素を踏まえ、東京都教育委員会が提供する体験型英語学習施設「TOKYO　GLOBAL GATEWAY（TGG）」を活用した 5 日間の教員研修計画案を作成した。この研修によって、不安概観や TGG スタッフとの交流を通してグローバル教育に対する見通しをもてるようになることや、疑似体験やワークショップを通して経験不足による不安を軽減すること等が期待される。同時に、教育活動における英語能力やコミュニケーションスキルに関する教員の不安軽減と、グローバル教育に関する教員の授業構成力の向上が期待される。

おわりに

本研究は、教員がグローバル教育の授業実践に主体的に取り組むことを目指して行われた。今後、実際の教育現場において、教員が主体的にグローバル教育の授業実践に取り組み、グローバル教育が推進されることによって教育活動全体が充実されていくことを願っている。

修学指導教員　（川﨑　由花）

引用文献

笠井正隆（2009).「アメリカのグローバル教育が目指す地球市民の特性と実践」『グローバル教育』第 11 巻, 38-48.

東京都（2021).「東京都教育施策大綱」東京都ホームページ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/action_and_budget/action/action.html

東京都教育委員会（2022).「東京都グローバル人材育成指針」東京都教育委員会ホームページ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/global/global_01.pdf

西松秀樹（2005).「教員効力感と不安に関する研究」『滋賀大学教育学部紀要, I, 教育科学』第 55 巻, 31-38.

松宮新吾（2013).「小学校外国語活動担当学級担任教員の授業指導不安に関する研究―授業指導不安モデルの探索と検証―」『応用教育心理学研究』第 30 巻 1 号, 23-35.

主な参考文献

石井英真（2015).「今求められる学力と学びとは-コンピテンシーベースのカリキュラムの光と影-」日本標準.

ウィギンズ.G・マクタイ.J(著)西岡加名恵(訳)(2012).『理解をもたらすカリキュラム設計―「逆向き設計」の理論と方法―』日本標準.

柏木賀津子・宍戸隆之・矢田匠（2021).「教員 21 世紀型スキルの自己効力感尺度の検討-学校教育でグローバル・コンピテンスを培うために-」『人間教育学研究』第 19 巻 2 号, 91-98.

川崎由花・澤山郁夫（2021).「小学生の保護者は小学校英語を担当する教員にどのような資質・能力を求めているか」『日本国際教養学会誌』第 7 号, 105-113.

国立教育政策研究所(編)(2019).「教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査(TALIS)2018 報告書―学び続ける教員と校長―」株式会社ぎょうせい.

竹内理・水本篤（2014).「外国語教育研究ハンドブック-研究手法のより良い理解のために-」松柏社.

バンデューラ（編)本明寛・野口京子(監訳)(1997).『激動社会の中の自己効力』金子書房.

林彰子（2020).「高校教員が感じる不安について―進学校にて高校生を指導する教員の語りからの分析と考察―」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第 60 巻, 129-139.

藤原武弘（2007).『人間関係のゲーミング・シミュレーション―共生への道を模索する―』北大路書房.

町田智久・内田浩樹（2015).「教員の外国語不安の軽減を目指した教員研修の開発」『小学校英語教育学会誌』15 巻, 1 号 34-49.

山田剛史・村井潤一郎（2004).「よくわかる心理統計」.ミネルヴァ書房.

Ashton, P. T (1985). motivation and the teacher's sense of efficacy. In Ames, C. & Ames, R. (Eds.) *Research on Motivation in Education*: vol.2 141-174.